

# 第零回

## 天下布武岐阜俳句大会

### [ 入賞者一覧 ]

#### 特別賞

##### ● 天下布武俳句大賞

秋水の掬へば消ゆる水の色 和生

##### ● 岐阜市長賞

秋風を感じる猫の長いひげ 川出 亜依

##### ● 岐阜新聞奨励

清流の水きる石や秋近し 久世 菜里

##### ● 商店街大賞

教室で日なたをさがす秋の朝 佐藤 駿

#### ◎ 一般の部

##### ・信長賞

山城の影大きくて星月夜 平野 栄子

##### ・道三賞

コロッケを抱へ驟雨のアーケード 奥山 ゆい

岐阜提灯曾祖母祖父母看取の間 俳児

岐阜弁の抜けぬままなり菊日和 前川 けい子

##### ・光秀賞

椎の実を踏んで登るや金華山 奥田 貴美子

腰蓑を干して鶴匠の家静か 舟坂 均

城のこと聞いて忘れて紅葉鍋 上野 陽子

鶉篝や彼の世の景色垣間見む 柴田 恭雨

「天下布武」信長露の一代記 川口 修

噴水のしぶきに城を透かし見る 白木 窓格子

筍や空の青さを奪ひ合ふ 塚本 睦

城をあげ月をあげたる桜かな 若井 一基

春コート売れてハンガー軽くなる 長町 誠司

残照の伊吹に向ふ帰省かな 安藤 美佐江

井ノ口の市章が光る敬老日 桑原 久治

柿好きと柿嫌ひみて一家族 各務 恵紅

籠蓋を突き出を待つ荒鶉かな 安田 一義

犬の舌仕舞はれてみて秋簾 勝 千紘

秋服の明るき色の柄を選ぶ 西垣 由美子

#### ◎ 高校生の部

##### ・信長賞

木犀の風に干しあり岐阜和傘 小林 俊輔

##### ・道三賞

からっぽの私を包む入道雲 青木 奈波

春の風信長像と君を待つ 河野 愛子

コロナという建前作り昼寝する 大栗 瑞霸

##### ・光秀賞

猫じゃらし猫と一緒にあたたまる 津田 隼百

晴天の青に染まれりソーダ水 勝野 来海

手袋や放っておけぬあのメール 福富 琴梨

寒暁やペダル踏み込む長良橋 高橋 幸太郎

金華山見上げてみれば翺雲	ドネサ アンロリ
からっぽの水筒鳴って真夏かな	福田 莉子
節分や面の中にも鬼の母	宮田 果典
秋風よテストを乗せて吹き抜けろ	田中 聖那
万緑の山が支える天守閣	安田 圭佑
いつもより白く煌めく白雨あと	大熊 初奈
足下で蟻が登るは馬の背か	辻田 峻稀
鳳仙花未来に向けて種飛ばす	松原 一平
花火たち銀河の下に咲き誇る	池田 涼菜
驚よ声が広がる金華山	今場 智哉
商店街マネキン達も厚着する	不破 みさき

◎ 中学生の部

・信長賞

織姫の袖がかはかず夏の雨 林 美有

・道三賞

運動会弟走るリレー見る 馬場 海飛

炎天下怒りを力に坂のぼる 川口 聖空

どこへやら怒りの抜けて昼寝覚 宮田 琉聖

・光秀賞

秋の山はじけとびちるコンペイトウ 齋藤 夢

ひまわりが日浴びるためにのびてゆく 木曾 未桜

勝負あり一本じめで蚊を叩く 加藤 善己

耳澄まし萬緑の音聞きにけり 清水 瀬七

夕暮れの花の水まきカエル飛ぶ 苅谷 文那

打ちぬかれ転がるボールと終わる夏 河合 結里加

せみの音と溶け出す猫の午後三時 辻 友梨奈

華がある月下美人の姿かな 三島 愛優里

あじさいの青に溶けこむ空の色 浅野 楓月

栗香る隣の部屋の台所 神田 倖希

加速するバトンの汗を受けとって	加藤 大稀
消しゴムが小さくなった夏休み	奥田 帆乃夏
夜明けまで鳴るよ踊るよ下駄の音	野邑 真由
この思い知らぬ北風胸を刺す	小山 るり

◎ 小学生の部

・信長賞

泣きはらし顔をあげればにじがある 奥原 羽衣

・道三賞

さかあがりひっくり返る秋の空 小森 裕介

どんぐりが転がりながら旅に出る 高橋 一太

あさがおのあおいろうみとそらのいろ 松下 葵

・光秀賞

打ち水の水で目覚めるかたつむり 岩田 紗生子

花火見て岐阜の自慢に花が咲く 名和 悠成

明月を見ながら母と仲直り 三日月 杏奈

くりご飯くりを数える一二三 福田 愛莉

うろこぐもルドルフみたいなまよい猫 新川 雫

朝起きてへちまのかげとせいくらべ 安西 笑里

運動会負けてもあせは一位だよ 高橋 菜里

子供でも家事はできます落ちばたき 高橋 菜月

クリスマススキップしながら町歩く 高橋 葉月

のぼりぼうのぼっていけばいわしぐも 安江 海翔

早起きで登校前に雪だるま 板倉 花乃

だいこんがおでんの中でこんにちは 大槻 幸太郎

ふむおちばくしゃっと鳴くよくつの下 くり本 真など

こうもりやちょうおんぱだしとんでいる 松原 壮佑

あかとんぼあかいおそらを見たんだね 村田 陵馬

たくさんのご応募ありがとうございました。